中部ブロック青年企画委員会　活動報告
浜岡原子力発電所の地震・津波対策と御前崎市津波避難タワー見学

中部ブロック青年企画委員会　柳原 善広

平成25年７月27日に、中部ブロック青年企画委員会による第一回勉強会として、「浜岡原子力発電所の地震・津波対策と御前崎市津波避難タワー見学」と題して震災を機に中部電力が取り組んでいる対策の工事内容や進行状況など講習・見学をし、避難タワーでは実際に登る事を体験することも出来ました。

会場内の様子

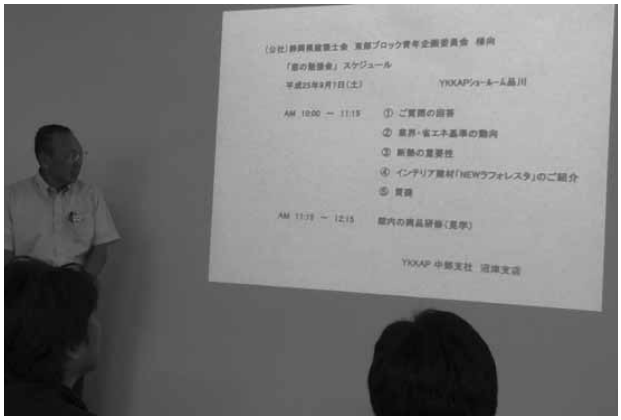
避難タワー　参加者集合写真

今回は原子力発電所での勉強会とあって、東部・西部ブロックからも参加して頂いて各ブロックとの交流も出来ました、今後も勉強会・講習会を計画していますので皆様の参加をお願いします。

東部ブロック青年企画委員会　活動報告
窓の勉強会

東部ブロック青年企画委員会　三田　芳之

平成25年９月７日に、東部ブロック青年企画委員会による勉強会として、「窓の勉強会」と題して、品川のYKKAPショールームにて、ガラスとサッシについての省エネ基準についてや、実際の製品などの勉強会を行いました。



講義の様子

色々な比較や、種類に依る特性など、実際に体験できる良き機会になりました

また、勉強会の後は、東京国立博物館・法隆寺宝物館を見学したり、川越の街並み散策、ヤオコー川越美術館など、様々な場所の見学も織り交ぜて、色々なデザインを士会の仲間で堪能してきました。

静岡県建築士会青年企画委員会 全国他ブロック研修報告

第56回建築士会全国大会「しまね大会」 青年委員会セッション報告

静岡県建築士会青年企画委員　小倉　博文

平成25年10月19日(金)、10月20日(土)に島根県松江市くにびきメッセにて日本建築士会連合会青年委員会主催の青年フォーラムと青年セッションが行われました。

「第４回　全国建築士フォーラム in島根　集まれ建築士」

このフォーラムは各地域の活動報告とグループディスカッションの二部構成でした。

まず、活動発表、次にグループディスカッションを行い参加者が一人一票として賞の選定を行いました。活動内容全体の傾向としては、建築士の視点からまちづくなどを通じて活性化を行っているものが多いように感じました。

その中でも参加者全員の投票により連合会長賞に選出されたのは関東甲信越ブロック長野県の「**まちづくりへの挑戦～佐久穂の<まちなみ>再考プロジェクト～**」でした。

長野県にある佐久穂のまちづくりを再構築していくというこのプロジェクトは地域に住む建築士が自ら企画を立ち上げてます。彼は自分の住む町にある建物や洋館などが解体され、チェーン店、フランチャイズ店や全国的なハウスメーカーの住宅に変わる様を見て、今までの重要文化財などによる指定による**<まちなみ>**保存では、本来の町が残せないのではないか？

さらには、中央集権的な都市計画行政では「**地域の風土に根ざした建築**」や「**雰囲気の良い街角**」**などの住人の日常的な<まちなみ>が引き継がれていくことが「ふつうの地域」に求められているまちづくりである**という考えのもと、実際に活動しているそうです。個人の建物を直接交渉してイベント用に借りたり、大学の経済学部(建築科ではない)と協働して<まちなみ><建物>の清掃活動、保存活動、イベント企画しています。

次にディスカッションが行われました。ディスカッションは15～20名程度のグループで発表者の方を中心に囲んで行います。活動発表時、発表者の方が早口(伝えたい気持ちが強い)になってしまっていて話について行くのが難しい部分もありましたが、内容自体は興味があったのでこの長野県のディスカッションに自分も参加しました。

記憶に残っているディスカッションは、大学と協働をする条件でした。まず、建築士会主体ということ。大学などの機関との協働となると大学側が主体となるケースが多いが、今回は建築士会主体となり協働(協力)としてと大学が参加する形で進めたそうです。

特に大学生と協働を行うということは清掃活動などのボランティア活動をする上で社会人である建築士会側としては、大学生に厳しくする場面も多かったそうです。**この活動は参加者に対して「お願い」するわけではなく、「出来るなら頼む」といったスタンス**を取っています。このことが活動を成り立たせた事由の一つではないかと思いました。

このプロジェクトは青年らしい気付きと行動力、企画力を感じました。また、個人のアイディアが事業として成立できているのは建築士会のバックアップ及び組織力があってこそだと思います。

このディスカッションに参加して感じたことは、我が町に振り返ったときに<まちなみ>を今、保存

しなければ「雰囲気の良い街角」を、自分が認識しないまま、いつの間にか失ってしまっているのではないのかなぁと漠然とした危機感を感じました。これは先人が何回も何回も踏んでいる轍(わだち)でしょう。それでも我々青年は、新人としてこの道の轍を踏む事は大切なことと思います。

交流セッション①
木造の可能性、そして建築士会の未来を考えよう！

各ブロックの建築士会をPRするアイディアや活動内容を発表しました。

北海道ブロックの発表の様子

東海北陸ブロックの発表の様子（岐阜県）

その後、活動内容ディスカッションを行いました。昨日と違い、円陣を組むような形ではなくセミナー形式で行われました。自分はディスカッションは中四国ブロックの代表香川県の「**建築士会の知名度を高める～会員増強と活動の強化～**」に参加しました。

香川県では香川県建築士会の現状分析から入っています。会員の世代分析だと40代～60代が70％であり、30代が残り15％、**20代がわずか2％**となっています。**会員数は平成16年1850名から平成24年1670名に減少しています。**ただ、近年、香川では新しく建築士になった方の会員の勧誘がとてもうまくいっており、新規一級建築士の**入会率がH23年度で43％14名、H24年度で63％19名**になっています。

ディスカッションの様子

工夫をしている香川県建築士会青年委員会でも、若手の発言は少ないそうで、発言できる若手の育成を目的に**20代限定の委員会**を立ち上げ自由に企画、運営の技術を身につけてもらい即戦力になる人材の育成を行っています。この委員会は会員、準会員で構成され、二つの命題を与えられています。情報の共有、会員同士の友達作りです。研修旅行や勉強会などは上の世代では行った事のある場所などでも自由にいけますし、勉強会も基礎から行うことが出来ます。そのような活動していた会員は、その後の建築士会の関わり方はより密接になるなと感じました。

さて、香川県の会員増強対策としては次の通りです。

STEP 1　合格通知書に明記

建築士試験の合格通知書は建築士会が発行しています。そこに**新規登録セミナーの日時を記載**し募集を掛けます。香川県建築士会で合格通知書に文を足すのは問題ないかと言うことで事務局に問い合わせたそうですが「問題ない」と言うことで記載しているそうです。

STEP 2　受付時に案内する。

事務局に免許登録に来たときに案内のチラシなどで募集を再度掛ける。その場で勧誘や名簿に記入をもらうのはNGですので、あくまで新規登録セミナーの募集案内のみです。

STEP 3　新規登録セミナー

新規取得者向けに**仕事の都合がつきやすい土曜日の午後に開催し、更に事務局と協力して一級建築士の新規登録を特別にセミナーと同時に行っています。**セミナーに出席しやすい状況を作っています。

セミナーの内容自体は連合会で配布されている「建築士とは建築士会とは」の内容を詳しく説明しているそうです。講師は会員内で、建築士免許更新の講師をしている方に協力してもらっているそうです。

時間も検討されていて**セミナーを午後5時半まで**とし、その後のすぐに時間をおかず合格祝賀会を行っています。また、ホスト役として青年、女性会員を集め、合格者の名札を色分けしてどの地区か分かるようにしてその地区の会員が積極的に話をするようにしているそうです。ここで名刺交換をして何かあったら連絡してもいいかと聞きます。これで名簿を作成出来ます。

終了は早めの午後七時半にし、**軽い気持ちで参加しやすい祝賀会**にしているそうです。多くの方はその場で入会を希望するそうですが、「考えさせてもらいます。」の人への対応としては次のSTEPになります。また、入会金は無料でその場で入りやすくしています。

STEP 4　会員・会員外へ向け勉強会、セミナーの実施

実際、セミナー系は食いつきが良いそうです。その後の懇親会などで仲良くなり、建築士会を知ってもらい勧誘していく方法です。確かに、筆者である自分も会員外の建築士から「どんなことをやっているのか？」「入るとどんなメリットがあるのか？」とかを良く聞かれます。会員活動をしてみると分かるのですが、メリットはたくさんあります。それは資格のような目に見えるメリット（もちろんそれもある）だけではなく、Webに出てこないような情報や新しい仲間との出会い、仕事の出会いだったりするので言葉ではとても表現しづらい部分です。逆に勉強会などでそのような活動の一端に参加すれば入会のきっかけに十分なると思います。

香川県建築士会は会員増強の特別委員会があるそうです。組織としては会長から三役と理事、青年委員長、青年各支部代表で構成されていて、企画、運営を青年が担い、その場で承認が得られるので議事がスムーズに進むそうです。予算は香川県でも苦しい状況は変わらないそうで、事業の見直し、廃止などをしながら特別委員会の予算を捻出しているそうです。それだけではなく会員減少の影響で存続できなくなっている事業も出てきている状況です。

やはり、全国的な流れで人口、会員、新規建築士減少は続いています。確かに我々、静岡県青年委員会でも35歳以下の会員というととても少ないですし、委員会に積極的に参加している人となると・・・。これがそのまま何もせずに5年後を迎えた場合は青年とは呼べなくなる、洒落にもならない状況があります。

神奈川県も同じような会員の増強活動をしています。**積極的に、実際に、活動している、県は少数ですがあります。**やはり、会員増強の実際的な動きは青年委員会が担っているところが多いようです。それは活動的な青年で動かす部分もありますが、**新規免許登録者となると30歳～25歳が中心**となり、40歳、50歳代の会員では勧誘が難しいという側面もあるようです。それでも青年委員長が40歳前後となるとジェネレーションギャップを感じることがあるとのことでした。

次に京都府建築士会会長　衛藤照夫氏による「**木造最新技術情報講演**」が行われました。

講演の様子

最後に

以上で第56回建築士会全国大会「しまね大会」青年委員会セッション報告を終わります。ディスカッション、懇親会などで普段接している静岡県、東海北陸だけでなく全国の建築士と話すのは文化の違いも面白く感じましたし、抱えている問題や疑問も似通っていて親近感を感じました。それ故に考えされられることも多かったですし、刺激も受けました。また、一つ少しですが自分の視野が広がった感じがします。この全国大会の内容を今後の青年委員会に反映して行きたいと思います。

青年企画委員会活動報告

静岡県建築士会周知活動『静岡県住まい博2013』

東部ブロック青年企画委員　秋山　貴

平成25年９月14日～16日の三日間、静岡市の「ツインメッセ静岡」にて開催された「静岡県住まい博2013」にて、静岡県建築士会の周知活動を行いました。

周知活動の様子

静岡県住まい博2013の来場者は、初日が約8000名、二日目が約13,000名、三日目が約6000名、三日間の開催で約27,000名が来場しました。

その来場者約27,000名に対し、昨年度に青年企画委員会で作成したパンフレットを配布することで、建築士の役割について、また、パネル展示では、建築士会の概要と、西部ブロックまちづくり委員会が作成した伊豆石の調査に関する展示をすることで、建築士会についての周知を図りました。

展示にも使用したパンフレット

来場者の方々と交流する中で、建築士の選考方法やコンタクトの取り方などに疑問を抱いている方が多く見受けられました。建築士とユーザーを繋ぐ方法を模索するとともに、建築士として、もっと身近な存在にならなくてはならないと切に感じました。

建築士の絶対数が減少し、また、独立する建築士も減少している昨今、建築士会に入会する建築士は少なくて当たり前である。

建築士が独立した後に経営が成り立つ様な世の中にしなければならない。建築士の資質を落とさずに、建築士を増やさなければならない。建築士の待遇や環境を改善するには建築士会のような団体の力は必要不可欠である。

一般的に認知度が低いと思われる建築士会に、いったい何が出来るのか、何をすればよいのか。周知活動と共に考えなくてはならない課題だと思われる。

展示内容

中部ブロック委員会報告

中部ブロック青年企画委員会勉強会「静岡市の建築」

中部ブロック青年企画委員会　清水　利至

８月31日に中部ブロック青年企画委員会による勉強会「静岡市の建築」が行われました。

今年度、中部ブロックでは４地区が順番で勉強会を企画・開催していますが、今回は静岡地区が担当しました。静岡市内にはいろいろな建築物があり、1998年に旧静岡支部が調査、編集した「静岡市建築ガイドブック」にはいろいろなジャンルの多くの建築が紹介されています。

それから15年が経ち、市街地では建て替えにより建設された商業施設や高層ビル、都市区域の拡大によって新たな地区に建設された施設など、新しい建築が次々と姿を現しています。

そこで今回は静岡市内の建物について建築としてまたは都市計画という視点から知識を広げ、業務につながるような幅広い情報を得るための勉強会として企画されました。

午前中は静岡地区の会員で「静岡市の建築」編集にも尽力された栗田仁さんによる勉強会を行いました。

静岡市産学交流センターの演習室でスライドを使った勉強会です。

前半は栗田さんが見てきた世界の美しい風景と、なぜそれが美しいのか。地上を自動車にあけ渡してしまってから街の表情が変わってしまうことがよくわかります。

そこから、自動車が入らない街の風景が紹介されていきます。どこも人が中心で「街」らしい活気が感じられる魅力的な都市に見えます、その写真の中で重要な役割を担っているのがＬＲＴでした。

世界の美しい風景や静岡の名建築を
紹介して下さった栗田さん

栗田さんの講演中

後半に入り静岡市内にある誰もが知っている名建築物の話へと、なかなか目にすることのない図面は非常に興味深く、もっとゆっくりお話を聞きたいと思いました。こうしてあっという間の９０分で午前中は終了しました。

昼食をはさみ、午後は３つの建物の解説と見学となります。

最初は新静岡セノバ、管理会社から担当者の方に来ていただき、静岡市民に親しみの深かった旧新静岡センターからの建て替えにあたり検討されたこと、それらが建築的に表れている部分などについて解説をしていただきました。

やはりポイントは１階部分の動線の整理ということで、電車、バス、歩行者が効率よく安全に行き来できることをいろいろと検討されたとのことです。

旧新静岡センターとの大きな違いは建物の周囲にできるだけ歩行者空間を確保したことということで、それによって鷹匠方面と御幸町方面、駿府城公園方面と街の中に人が回遊するスペースが生まれたということです。

また、上層部にシネマコンプレックスを配置することになった経緯など興味深い話もお聞きすることができました。

ひと通りの解説を聞いた後は次の見学場所に向かう途中、新静岡セノバとその周辺を各自で解説と実物を比較しながら自由に見学をしました。

新静岡セノバの勉強中

駿府協会の内部とご説明頂いた瀬谷神父

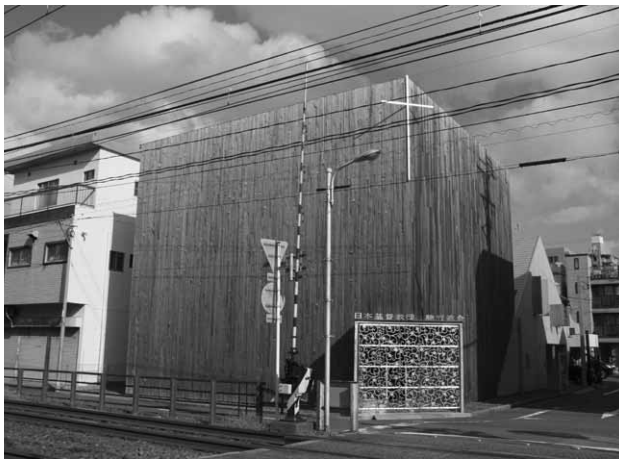
散策の後、参加者は日本基督教団駿府教会に集合しました。

この建築は西沢立衛氏の実兄である西沢大良氏の代表作ともいえる建築です。

鉄道線路わきの道側から見ると真四角の外形に見えます、その外皮は木材を裂き割った板のみで構成され、そのシンプルでありながら素材感が強調された外観は大きさ以上の存在感をもっています。

内部空間も構成はシンプル。そこで牧師さんから教会を建設するにあたり西沢大良氏に依頼することになった経緯、完成するまでのいろいろ、そしてこの建築に込めた思いなどを聞かせていただきました。

このシンプルな造りの中には礼拝のための空間として質を高めるための建築的配慮がされていること、天窓から差し込む太陽の光が美しく見えるようなディティールが備わっていること、見るべき部分がたくさんありました。



駿府協会外観

最後は今年の春、東静岡地区にオープンしたショッピングモール、マークイズ静岡に足を運びました。

こちらでは計画を担当された三菱地所㈱と㈱三菱地所設計の担当者の方が解説をしてくださいました。

ショッピングモールを建設するに当たり、どのようなデータに基づいて建物規模や商業的コンセプトを設定したのか、私たちの普段の業務とは全く違う視点での建築計画のプロセスの話。ＪＲ東静岡駅と静岡鉄道の二つの駅からという３方向からの歩行者アプローチ、国道１号線からの自動車の流入と流出先の確保、そしてショッピングモールとしての各店舗の配置的条件のバランスなど、ここでも平面配置計画が大きなポイントであったことが分かりました。また、その計画の趣旨に沿った建築としての外観の検討、そこから実際の建設に移った際の変更しなければならなかった部分、各部の作り方とコストバランスの調整など、細かいですが建築的に興味深い内容もお話していただきました。

解説の後は各自で話を聞くことで少し見え方が変わったショッピングモールを改めて見学し、今回の勉強会は終了となりました。

今回は最近建てられた建物を中心に見学しました。そこには街の風景を変えるような大きな建築も、純粋に建築としての存在ということ以外の要素によって形や造りが決定されていく様子がありました。それらを実物を目の前にして考えることはこれからの建築を考えるうえでも意味のある勉強だったのではないかと思います。